

令和 5年度 事務事業評価表【評価版】(令和 4年度実績)

事業名 : 学校給食事業

【事業番号

403】

給食センター 業務係

政 策	06 子育て・教育	戦 略						
取 組 の 基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的な施策						
開始年度	一	終了年度	一	区分1	継続	区分2	単独	補助金 団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小中学校児童生徒等

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,654	8,689	8,656	8,785
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

給食センターで作った給食を専用搬送車両で市内全公立小中学校へ配達し、各学校に配置している配膳員が各クラスに配膳する。

給食に地場産野菜を提供してくれる農家団体やJA道央と調整し、出来るだけ多くの地場産野菜を導入する。
「江別市学校給食会運営費補助要綱」に基づき、江別市学校給食会へ補助金を支出す。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標 1	年間給食センター稼動日数	日	181	201	202	201
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

正しい食事のあり方や、望ましい食生活を身につけ、食事を通じて育成時に必要な食事を摂取（栄養バランス、量）し、健康が維持される。また、食事、給食活動を通じて、豊かな心が育成される。

児童生徒に新鮮で安全安心な地場産野菜をたくさん使って、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより健康の増進と体位の向上に貢献する。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標 1	地場産野菜の使用率	%	52.2	43.4	43.5	50
成果指標 2						

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事 業 費 (A)		千円	270,479	273,261	291,916	308,609
正職員人件費 (B)		千円	119,012	116,387	116,341	117,550
総 事 業 費 (A+B)		千円	389,491	389,648	408,257	426,159

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・調理場運営、維持管理費用 ・配膳員をはじめとする給食関係職員の人件費 ・給食配送や弁当箱洗浄など給食関係業務委託費 ・江別市学校給食会運営費への補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食調理補助員等報酬及び期末手当 84,843千円 ・重油代 31,608千円 ・電気料 22,223千円 ・水道料 13,065千円 ・学校給食配達業務委託料 49,830千円 ・江別市学校給食会運営費補助金 15,774千円 ・小中一貫教育における給食提供経費 1,790千円

事業開始背景
学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資し、かつ、国民の食生活の改善に寄与するものであることから、学校給食の普及充実を図ることを目的として、昭和29年に学校給食法が制定された。江別市の学校給食は、昭和37年に単独校方式によって旧江別小学校と豊幌小学校で始まり、昭和44年には給食センターが建設され、全校給食が開始された。

令和4年度の実績による担当課の評価（令和5年度7月時点）		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	給食事業の中で、食に関する指導の必要性は高まっており、指導内容の向上にも努めている。
	上がる	理由根拠
	どちらかといえば上がる	↑
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	給食には出来る限り地場産食材を取り入れており、メニュー等給食の内容は、高いレベルを維持している。 今後、栄養教諭による児童生徒や保護者への指導が充実することで、上位貢献度及び各指標の向上が期待できる。
	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	↑
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	照明や冷暖房等、日常的にコストの削減を徹底しているが、限界がある。
	ある	理由根拠
	なし	↑

令和 5年度 事務事業評価表【評価版】(令和 4年度実績)

事業名 : 学校給食食器更新事業

【事業番号 805】
給食センター 業務係

政 策	06 子育て・教育	戦 略						
取 組 の 基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策						
開始年度	平成19年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小中学校児童生徒等

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,654	8,689	8,656	8,785
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

江別市学校給食用食器検討委員会において、安心して提供できる学校給食用食器の選定について検討する。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標 1	食器更新・追加数	個	2,805	1,780	2,280	3,400
活動指標 2	検討委員会開催数	回	0	0	3	0

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

安全、安心な食器で喫食することにより、楽しく食事し、豊かな心が育つ。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標 1	食器破損率	%	4.37	3.81	4.37	6
成果指標 2						

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事 業 費 (A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費 (B)		千円	381	380	380	384
総 事 業 費 (A+B)		千円	381	380	380	384

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
4年度	安全、安心な食器を提供するため、破損した食器の補充管理、食器についての情報収集を行う。	人件費事業

事業開始背景
様々な素材の食器が生産される中、プラスチック製品には様々な化学物質が使用されている。より安全、安心な食器を学校給食で使用するため、平成19年度に検討委員会を設置した。
事業を取り巻く環境変化
様々な素材の食器が日々生産されている。

令和4年度の実績による担当課の評価（令和5年度7月時点）		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	安全安心な食器を使用することで、食事の楽しさの一端を担っている。食器破損数の増加は、経年劣化も要因として考えられるが、児童生徒等による取扱いの慎重度合いや落下等事故の頻度にもよるため、一概に成果を判断することは難しい。 ↑ 理由根拠
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	令和元年度に給食用箸を更新し、児童生徒に安全安心な給食を提供している。 ↑ 理由根拠
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	給食を安全に喫食するために必須な食器の更新である。 ↑ 理由根拠

令和 5年度 事務事業評価表【評価版】(令和 4年度実績)

事業名：食育推進事業

【事業番号

874】

給食センター 業務係

政 策	06 子育て・教育	戦 略						
取 組 の 基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策						
開始年度	平成21年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小中学校児童生徒等

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,654	8,689	8,656	8,785
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

江別市学校給食食育運営委員会において取りまとめた「江別市の公立小中学校における食育の推進」により示した方向性に従い、学校が進める食育に関する活動及び事業に対して、必要な指導、援助を行う。
栄養教諭が、学校教育課程の中で「食に関する指導」を行う。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標 1	運営委員会開催数	回	0	0	0	0
活動指標 2	栄養教諭による「食に関する指導」実施学級数	学級	246	268	285	330

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

食事の重要性を理解し、食事の自己管理能力や食品を選択する能力を身に付けることによって、豊かで健全な食生活を実践することができる人間が育つ。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標 1	朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合	%	82.4	82.5	81.6	85
成果指標 2						

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事 業 費 (A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費 (B)		千円	1,526	1,521	1,521	1,537
総 事 業 費 (A+B)		千円	1,526	1,521	1,521	1,537

事業内容（主なもの）			費用内訳（主なもの）
4年度	栄養教諭が学校教育課程の中で「食に関する指導」を行う。		人件費事業

事業開始背景
食育基本法が制定され、市内の小中学校児童生徒等に食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせることが必要とされた。
事業を取り巻く環境変化
食育基本法に基づき、平成23年12月に「江別市食育推進計画」が策定され、平成31年3月に第3次計画が策定される。 また、江別市学校給食食育運営委員会において「江別市の公立小中学校における食育の推進」を取りまとめて各学校に配布し、今後の食育推進のための基本的な方向性を示している。

令和4年度の実績による担当課の評価（令和5年度7月時点）		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	令和4年度において、江別市学校給食食育運営委員会の開催は無かったが、食育の推進に関する方向性に基づき、市内各校において推進に努めている。 ↑ 理由根拠
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	食育の推進に関する方向性に基づいた助言・指導を基に、各校での食育の活動が活発化することで成果は向上していくが、目に見える成果が出るには時間が必要との考えられる。 ↑ 理由根拠
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	事業費はない。 ↑ 理由根拠

令和 5年度 事務事業評価表【評価版】(令和 4年度実績)

事業名 : 学校給食原材料費高騰対策事業（物価高騰対策）

【事業番号

7005】

給食センター 業務係

政 策	06 子育て・教育	戦 略						
取 組 の 基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的な施策						
開始年度	令和 4年度	終了年度	一	区分1	新規	区分2	単独	補助金
								団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内小中学校の児童生徒等

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	0	0	8,656	8,785
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

保護者負担を増加させることなく、給食原材料費を確保するため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、学校給食の原材料等を発注している江別市学校給食会へ補助金を交付する。
併せて、市内原材料納入事業者への支援及び児童生徒の食育の推進を図る。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標 1	補助金交付回数	回	0	0	1	1
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

新型コロナウイルス感染症の長期化により、学校給食の原材料費が高騰した状況において、栄養バランスが保たれた学校給食の安定的な供給を図る。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標 1	学校給食提供日数	日	0	0	202	201
成果指標 2						

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事 業 費 (A)		千円	0	0	25,485	0
正職員人件費 (B)		千円	0	0	1,521	0
総 事 業 費 (A+B)		千円	0	0	27,006	0

事業内容（主なもの）			費用内訳（主なもの）
4年度	江別市学校給食会に対する学校給食原材料費の高騰分の補助金		江別市学校給食会への原材料費高騰対策補助金 25,485千円

事業開始背景
新型コロナウイルス感染症の長期化による物価高騰の影響を受け、学校給食食材費が高騰している。物価高騰による給食費増額分について、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、江別市から学校給食食材費を支出する江別市学校給食会へ補助金を交付することとした。
事業を取り巻く環境変化

令和 4年度の実績による担当課の評価（令和 5年度7月時点）		
成 果 動 向 及 び 原 因 分 析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	補助金の活用により、安定的に給食を提供することができている。 ↑ 理由 根拠
成 果 向 上 余 地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	補助金を財源としており、事業期間が限定的であるため。 ↑ 理由 根拠
コ ス ト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	必要最低限のコストで実施している。 ↑ 理由 根拠